

Ⅱ 教育課程についての

教師の意識を中心に

高 森 充

1. はじめに

本校における教育課程とその問題点については、昨年度の紀要（第17集）に、来年度以降の新教育課程は、別に倉田教官によって、その審議・作成経過等が報告されている。ここでは、教育課程の内実をどう考えるかという視点で問題を取りあげたい。

所で、本校の基本的性格と教育方針を一言でいえば「本校は、小学校（中学校）における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育（高等普通教育）を施すとともに、名古屋大学教育学部の教育研究計画に従って、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行ない、兼ねて名古屋大学学生の教育実習を行なうことを目的とする。」（本校学則第1条）

従つて、研究実証・モデル校・教育実習という付属学校の使命の三本柱にからんで、常に問題となるのは本校の教育・研究体制と入学者選抜のあり方である。このことについては、別稿「入試制度をめぐる問題——付属学校のあり方と関連して——」にくわしく報告しているので参照されたい。「普通の生徒を集めて、高い水準の教育を」（元学校長、広岡亮蔵教授のことば）の教育方針は、しかし、教育課程の外観において別段目新しい特徴をもっているわけではない。中学校はまさしく中等普通教育として、高校は高等普通教育として、この地域（名古屋）における公立学校の普通・標準的モデルを志向してきたといえる。しかし、教官スタッフ、施設、生徒数から見て、名古屋市内でも最小規模に属する本校が、真に標準的な学校であるかは、形態的には無理であろう。だとすれば、その教育活動、内容、教育研究のモデルになり得ているかどうか、誠に困難な課題を負っていると言わなければならない。ともあれ、制約的な条件の下で、出来るだけのことをやる外ないが、必修クラブ活動の問題も含めて、教育課程の検討はとにかく、本校教師集団の真摯な討議を経て決定されてきたものである。その内実と実践の問題は今後にその多くを残しているけれども。

2. アンケートにあらわれた教育課程についての本校教官の意識

生徒を対象としたものは、前年度の紀要第17集に報告されている。ここでは、48年度以降の中・高校の新教育課程が審議決定された段階で全教官へのアンケートを中心に、結果の分析及び考察を試みる。（但し、アンケートの性格上、個々の教官の真意を十分にくみとることができず、一定の限界をもつことをおことわりしたい。）

調査対象 全教官 32名（内1名欠）回答数 31名
調査期日 47年12月10日～18日
形式 選択技法と記述法（面接による意見聴取を含む）

本校（中・高）の48年度以降の教育課程が一応決定されましたが、中味をどう考えるかという視点で、先生方の御意見を戴きたいと思しますのでよろしく御協力下さい。（該当の所は○印で）

(1) 担当教科（人数）…回答者数31名（中高兼任）
国語（5） 社会（5） 数学（5） 理科（4）
英語（5） 保健体育（3） 芸術（2）
技術・家庭（2）

(2) 本校の教育課程について、その時間配当は、自分の担当教科科目の立場から見て、

（中学） （高校）

ア 多過ぎて困る	ア
イ 適当である	イ
ウ 少ないが、止むを得ない。	ウ
エ 少なくて、困る	エ
オ その他	オ

エ・オの方は、どんな点で困るか、その理由をお書き下さい。

中学	実数	%	高校	実数	%
ア	2	6.7	ア	2	6.9
イ	16	53.0	イ	11	37.9
ウ	9	30.0	ウ	12	41.4
エ	1	3.3	エ	2	6.9
オ	2	6.7	オ	2	6.9

中学では、「適当である」が約半数、高校では「少ないが、止むを得ない」と「少なくて困る」を含めて約半数に達する。この場合、エ、オに関して、特に問題点を指摘されたのは、保健体育科である。時間増に伴う定員増の保障がないこと、小規模校として、授業編成の困難点があげられている。逆に中学の美術、音楽の時間減(中3で週1時間)は改悪との意見がある。その他、高校の国語からも出ている。

(3) 高校では、学習指導要領による卒業に必要な単位数は85単位で、本校では、履修単位数、現行99単位新96単位となります。

本校の履修単位数

	項 目	実数	%
ア	多すぎと思う	13	41.9
イ	適当と思う	6	19.4
ウ	多くても止むを得ない	6	19.4
エ	教育内容・方法の改善によって、各教科とも減らすべきだ	4	12.9
オ	その他	2	6.5

履修単位数については、生徒の半分以上(55%)が削減の意見をもっていたが(前年度紀要報告)教官も、「多すぎと思う」と「教育内容・方法の改善によって、各教科とも減らすべきだ」という意見は、合せて、54%になる。にも拘らず、新教育課程案の校内審議の過程でどの教科・科目を減らすかは大問題であり、結果的に標準単位数をこえる結果となった。この矛盾は大きい。「大学受験中心に考えられることへの反省」や「条件を整えば、必修を少なくして、選択を多くすべきである」という意見については、今後十分検討していく必要がある。

(4) 現行の教育課程の下で、教科・科目の内容をどう扱っていらっしゃるでしょうか。

(中学)

(高校)

ア	内容が多過ぎるので、取捨選択している	ア
イ	ほとんど指導要領や教科書の内容に即して、やっている。	イ
ウ	指導要領や教科書にこだわらないで、自分の計画によって、進めている。	ウ
エ	その他	エ

教科の性格にもよりますが、それ以上に、教官の個人差、考え方の違いがかなりきわ立っている。この選択肢では不十分であるが、次のようになった。

中学	実数	%	高校	実数	%
ア	7	24.1	ア	10	33.3
イ	10	34.5	イ	10	33.3
ウ	10	34.5	ウ	10	33.3
エ	2	6.9	エ		

これ以外にアとウの併用、イを中心に教科書以外の補助教材を加えるという指摘があった。高校入試や大学入試にない教科や関係の少ない科目はかなり思い切った内容の取扱いがされているようである。

(5) 指導要領や教科書の内容・教材配列等について、どんな点に問題点をもっておられますか、これについては、教科・科目によってかなり視点の違いがあるように見受けられる。出された意見をそのままあげさせて戴く。

国語「作文が全体の30%では不十分。文章能力不足が戦後教育の欠陥として叫ばれながら、これでは解決しえない。」「教材がこまぎれの寄せ集めで、そのままでは使えないものが多い。(文学・評論教材など)」「生徒やそれをとりまく現実に対する認識がずれている」「教材選択の価値規準が狭く偏っている」「古典教材の再検討が必要」「古文・漢文の教材には、つまらないものも多く含まれている。苦勞して読むのだから、おもしろい内容でなくては生徒もついてこない」「国語科が他教科に比して建前(指導要領の記述)と実際(教科書の内容教材)のくい違いは多分一番大きいのではないか」

社会「中学校の公民的分野の中心観念や内容構成に本質的に問題あり。高校についても、非社会科学的な内容である。」「高校における社会科の統一性の欠除、科目間の再構成が必要」「歴史について、時代の性格、特色を明瞭にする為の配慮が必要」「主題学習のあり方」総じて「社会科に一貫してつらぬく論理がはっきりしない」

数学「指導要領は抽象的、教科書は説明不十分」それでいて、「程度が高く、教材が多すぎる。内容はできるだけ簡けつにすべきだ」「文部省自体もっと現状を把握すべきで、ただ内容(教材)を並べただけとしか思われない」

理科「中学では、天文が一年生で扱われるようになったが、この段階で空間概念を理解させることは適当でない。従来通り三年がよかろう」「高校新指導要領は内容の精選などの点で大分よくなっている。しかし大学入試が足かせになっているのが実情」「内容過多を如何に切りつめ、構造化するか。量子化学、化学熱力学をどの程度中等教育に導入できるかを考えたい。

新しい高校理科のシラバスないしはカリキュラムの基本の明確化が必要」

英語「中学校の時間数の減少にともない程度が下がっている。大学入試を考えると高校で苦労する」前者に関連して「今後、全国的に学力低下が予想される。3年後の大学入試がそういう事情を考慮するだろうか」「指導要領に法的拘束力を持たせていることが問題である」

保健体育「指導要領の示す要求水準，到達規準が高すぎる」

技術・家庭「他教科との関連性，とくに理・数においては系統性を重視し，実際問題（生産）との関連性がうすい」「教科書通りにいかないこと→実技（手を動かすこと）及び評価。教科書通りにいくこと→書いてあることを理解したようにサクサクすること」の問題性。

芸術「総花的で重点もなく，時間，設備等の関係上できないものや，できても必要ないものもある」「もっと時代の流れに即応した方針をとらないといけない」

- (6) 教育制度検討委員会（日教組）の第2次報告書によれば、「なによりも必要なことは，小・中・高校の盛りたくさんの教育課程を思い切って簡素化し，それに従って毎週授業時数を大幅に短縮させることである。…そのおよその見通しとして，小・中・高校を通じて教科の授業にあてる時間数は週20時間内外，ほぼ午前中で教科の授業が終了するようになることをめどとすべきである。……体育・音楽・美術などは……午後の時間を用いる自由な学習として運営することはできないか。」とありますが，それについて，

	項目	実数	%
ア	趣旨には賛成であり，本校でも研究・検討の要あり	14	45.2
イ	実現させるには，余りにも障害が多い	10	32.3
ウ	非現実的で，我が国の現状から見て，無理だ	5	16.1
エ	その他	2	6.4

ここでは，アの検討の要あり，とされるものが約半数に達している。このことは，問(3)の履修単位数についての意見と関連していると考えられる。それにしても，先にも見たように，生徒も教師も現行の過当り教科時間数や年間履修単位数を過大と意識しているものが，半数以上或いはそれに近い数を占めていることは，他の各種の条件とからむ点が多いが，将来にわたって今後も継続的に教育課程の改善・研究が進めら

れなければならない必要性を示しているといえる。

他方，イ，ウ，エに関連して，当然多くの問題点が考えられるが，付加された意見は次のようであった。

教育制度検討委員会の提案の主旨について，「将来の問題として考えてみるのはよいが，それ以前に現行のあり方に対する反省が必要」「受験を考えると，（午後の自由な学習というのは）まずその方面へ進みたいと考える者以外は出席しないのでは？」「教育体系，受験制度，社会体制との関連を考慮して，巾広く考えていくべきだ。単なる簡素化はダメ」等の意見が寄せられている。

- (7) 先生の実践や，教育内容の自主編成の試みの例がありましたら，あげてください。（題材，テーマなど簡単で結構です。是非）

ここでは，アンケートとしての制約もあるし，失礼にわたる点があるかも知れないが，簡単に要約させて戴くこととする。

国語「高校（3年）で『近代日本の特質と青年の生き方』を年間のテーマとして，近代文学の典型的な教材を自主編成して指導する試みをしたことがある。」「古典教材の再検討，生徒の興味関心の調査に基づいて教材の配列」「現行のジャンル中心の単元でなく，テーマ（観念）を中心に単元を設定してみたい。古典・現国などの科目の枠も取り払って，漢文，史話教材，古文，徒然草などで」

社会 構想としては，主題「社会に生きる人間の発展と課題」の下に，各学年の主題を（中1）日本人の生活舞台と歴史（中2）世界の中の日本（中3）現代社会と人間（高1）環境と人間（高2）世界史の中の人間と国家（高3）現代社会と我々の課題当面の具体的研究課題と実践的試みとしては，「地理Aと地理Bをあわせた『地理』の立案と実践，——地誌的学習と系統的学習の組み合わせを考え，教材配列・構造を検討する」「日本史，世界史の社会科における科目間教材の再構成」「歴史における講義学習の中での主題学習的な扱い方」「中学校社会科 公民的分野の原理的批判と内容の再構成及び高校政・経教材の構造化と方法の改善」

数学「部分的に自主編成，教材の配置換え，演習問題のプリント作成など」「数学における論理構造の問題点について」「空間図形の教材の配列」

理科「高校化学現代化カリキュラム試案，前期中等教育教育理科における化学カリキュラムの現代化，望ましい基礎理科の在り方（基礎科学としての基礎理科）」「生物教育に新しい内容をとり入れる場合の諸問題，高校生物の内容の重点のおき方についての一つの試み」

英語「Hearing, Speaking の指導と問題点」「英

語学習の能率化と少人数学習」「高3の選択授業での詩・笑話・随筆・報道文などの導入の試み」

保・体「個人の能力差を考慮した学習指導——生徒の創造性を生かしたグループ学習」

技・家「公害教育」「女性と職業（現在の働く女性の声を中心にグループ討議・発表）、クズ公害等についてのグループ研究、食品添加物についての定性的研究」

音・美「中学校における器楽の導入と展開」「中・高

における創作指導のための教材研究」

以上、一部は本年度各科研究テーマ等から再録させて戴いた例もあるが、各科それぞれに実践的な試みや、教育内容と方法改善の個人的試行・工夫がうかがえる。唯、今後の課題として、全校的な教育・研究と教育内容の自主編成の結合、その実践的取り組みをどう組織化していくかの問題が残されているというべきであろう。